

お年寄りに 犬のパートナー

広島 獣医師会あつせん、好評です



飼い主に捨てられて安樂死させられる運命にある犬たちを、さびしい生活を送るお年寄りにあつせんする

活動を広島県獣医師会（滝口次郎会長）が進めている。名付けて「高齢者と動物の「ふれあい」促進事業」。日常生活に新しいパートナーを得て、お年寄りの表情が明るくなったと地

「息子ができたみたい」と目を細めるお年寄り
〓広島県神石郡油木町で

元では好評だ。

無責任な飼い主に捨てられたり、放置される動物は後を絶たず、同県動物愛護センター（豊田郡本郷町）では、去年一年間に犬一万五百六十七匹、猫五千五百九十四匹を安樂死処分した。

同獣医師会は約百二十万円の予算で去年夏から神石郡四町村と佐伯郡佐伯町、湯来町であつせんを始めた。対象は原則として七十歳以上の一人暮らしか、老人だけの家庭。狂犬病の予防注射や定期健康診断なども獣医師会の会員が巡回し

て無料とする。

すでに三十八匹の犬が「第二の人生」を新しい飼い主とともに送っている。オスのビーグル犬がやってきた神石郡油木町野田丸の横山太郎さん（七三）が、「甘妻の文子さん（七三）が、「甘えん坊で、まるで息子みたい。いたずらザルを追いかけてもくれるし、いまでは立派な家族の一員です」と、ボチと名づけた愛犬の頭をなでる。

同獣医師会は、対象地域を広げ、犬だけでなく猫のあつせんも考えている。